



SHIRANE

発行/社会福祉法人白根学園 発行責任者/三木 健太
住所/横浜市旭区白根7-10-6 TEL.045-951-2669 FAX.045-951-7773



Homepage



特集

TOPIC 01

希望祭/せりやまフェス

TOPIC 02

街角紹介

TOPIC 03

チャレンジドカップ アイデア賞受賞



目次

- ・ 学園長挨拶②
- ・ 研修報告③
- ・ 行事
〈希望祭/せりやまフェス〉④
- ・ 街角紹介⑤
- ・ チャレンジドカップ
アイデア賞受賞⑥
- ・ 職員工ッセイ⑥
- ・ 事業所紹介⑦
- ・ まちがい探し/編集後記⑧

これからの社会福祉法人はどうしていく？

～芹が谷やまゆり園の共同運営から考える～

2025年12月 学園長：飯山文子

日本の人口減少が始まって20年弱、この間日本の社会や価値観が大きく変化し、社会福祉法人の存在価値やあり様が以前にも増して問われるようになってきました。

支援を必要とする人は増える一方で、働き手不足が深刻になりつつある昨今、利用者、職員を含めて白根学園が関係する諸々の人たちに対し、第一種社会福祉事業を複数運営する社会福祉法人としての社会的責任を果たすために、未来へ向けて何をどう繋いでいくのか、考えない日はありません。そのような中で、白根学園では思うことがあって2023年4月から社会福祉法人同愛会と共同で、県立芹が谷やまゆり園の運営をしています。今年で3年目になり、最初の指定管理期間である5年の折り返し地点を過ぎたところです。これからの社会福祉法人のあり方を考える際に、この芹が谷やまゆり園の共同運営は、新たな示唆を与えてくれるものになるのではないかと考え、現時点で思うところを記しておきたいと思います。

第一種社会福祉事業である入所施設を複数の法人で運営することは、今の社会福祉の法制度では正式には認められておらず、神奈川県が県立施設のあり方を見直す中で試みている、特別な形での運営です。社会福祉連携推進法人とも違う形です。この共同運営は、芹が谷やまゆり園の利用者を真ん中に置いて、両法人がそれまで培ってきた知的障害者支援についての英知を、法人の枠を超えて持ち寄り、支援手法や技術、理論など一法人による独断に陥ることなく、目の前の一人ひとりの利用者支援への発想の幅を広げ、芹が谷やまゆり園での支援の質の担保と支援力の向上につなげようと始めました。これは

社会福祉法人の使命の具現化そのものだとは自負しています。そして白根学園にとって…“多分同愛会にとっても…”この共同運営のプロセスは、法人が創設以来大切にしている想いの、コアな部分はしっかり守り、コアな部分を守るために進化させるべきことへの気づきやその方向性を考える大きなヒントになったりしています。

社会福祉の分野では「経営の安定と運営の効率化」のために法人合併や、社会福祉連携推進法人の推奨等、色々な取り組みが進んでいます。それも社会福祉法人がその使命を果たすための一つの考え方だと思います。同時に社会福祉法人に限らず企業等、組織には創設の由来に基づく理念があり、それはその組織が組織足らんとするためにとても大切なものです。社会福祉法人であればなおさらです。私たちは、他人とより近しくやり取りすることで改めて自分自身を発見することがあるように、他法人と近しく行き来することで自法人について改めて発見し、どのような形であれ、自律的に次のステージに進んでいくことは重要で、そのために、法人の枠を超えて現場レベルが日常的に近しく交わる仕組みの中で将来像を考察していくのは、大いにありうる形だと考えるようになりました。

白根学園が挑戦中の共同運営という形は、まだ始まったばかりで、どう転んでいくかわからない、と言うのが正直なところですが、指定管理期間を終えた時、共同運営なんてまっぴらごめん！と思われぬように、思わぬように、法人としての進化・更新を怠らずに行きたいです。因みに芹が谷やまゆり園の利用者支援の現場はお陰様で順調ですし、法人同士の関係性も良好です。なのでご心配無きよう…。

研修報告

🔖 チームリーダー研修

社会就労センターのぞみ：高橋 一平

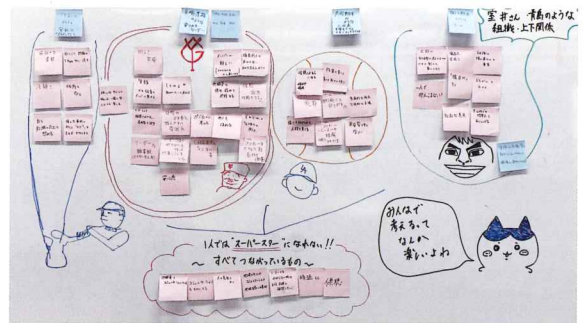
2025年9月10日～11日の2日間、ウィリング横浜にて「チームリーダー研修」を受講しました。

2日間の内容としては、チームリーダーとしてのキャリアデザイン、サービスの質の確保・向上とリスクマネジメント、チームマネジメントなどで、講師である浅野 睦氏の講義とグループ内での討議やグループ毎の発表を通して理解を深めました。

私のグループでは、グループワークの際に「なりたいチームリーダー像とは？」というテーマで話が盛り上がりしました。90年代の大ヒットドラマ『踊る大捜査線』で柳葉敏郎さんが演じたエリート上司・室井慎次の「組織を改革したい」「部下を信じたい」という思いに共感しあい、またドジャースの大谷翔平選手が二刀流を実現できるのは、日々の探究心、幅広い視野、周囲への配慮、そしてセルフマネジメントの積み重ねによるものだと感じたりしました。

こうした著名人を例に挙げながら、職場や支援の現場で必要とされる要素を、彼らの持ち味に合わせて整理・分類し、チームリーダーとしての行動指針をまとめました。チームリーダーとして大切なことは、広い視野・専門性・目標設定・判断・積極性ですが、何よりも職員一人ひとりが良い仕事ができる環境を作ることと、チームリーダーの姿が職員の良いお手本となることが大切であると感じました。

今後はチームリーダーとして、職員一人ひとりが働きやすい環境づくりや人材育成に努め、利用者さんにより良い人生のサポートができるよう、日々精進してまいります。



🔖 研修「障害者の高齢化」

風の丘：小林 泰恵

2025年7月23日にウィリング横浜にて障害者の高齢化研修を受講しました。講師には埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」、障害者相談・地域支援センターけやきセンター長の野崎陽弘（のぞきあきひろ）氏をお呼びし、障害者の高齢化に伴う障害福祉サービスと介護保険制度の現状、課題について学びました。

講義ではデータを多角的に分析する事から始まり、障害者の現状を知ることが出来ました。特に、親亡き後問題、孤立リスク、医療的ケアの複雑化、支援者側の課題等、障害者の高齢化による課題は私が携わる現場でも、直面している課題となっています。

演習では、講師から提示された事例を元にグループで事例検討を行いました。グループ内には障害者分野の他にも高齢者、生活保護の現場に従事する参加者もいた為、多職種同士で様々な意見や考えを共有できる有意義な機会となりました。

65歳を境目に利用できる福祉サービスの内容が変わるのは本人や関係者にとっても大きな転換期となります。本人へのサービス内容の説明、計画作成者である相談支援員と介護支援専門員との連携構築、現場職員間での障害福祉サービスと介護保険サービスの情報共有等、綿密な事前準備が必要と感じました。利用者さんの制度移行時に切れ目のない支援を行うにはどうしたら良いか、現場の職員間で考えていきたいと思いました。

🔖 転倒防止についての勉強会

しらねの里・げんき：杉山 早苗

しらねの里・げんき（以下げんき）の位置する、ひかりが丘地域では、地域ケアプラザ主催で2ヶ月に1回、地域の高齢者施設・障害者施設・保育園等が集まる地域懇親会が開かれています。懇親会では高齢者施設の職員から利用者さんの転倒について、各施設での現状や対応方法をお聞きすることができました。げんきでは利用者さんの高齢に伴い、転倒が相次いでいる事を報告、相談しました。その際、ケアホーム横浜の理学療法士である前田真理様から「職員向け勉強会」開催を打診され、転倒防止勉強会の開催に至りました。

勉強会では、前田様に施設内を見学頂き、危険場所等を教えていただきました。また職員間ディスカッションでも、作業室内で椅子が飛び出していたり、机が動いてしまって通路が狭くなり、つまずいて転倒が起きている点を確認。前田様からは、転倒は様々な要因で起きてしまうが、防ぐ工夫が出来る事。机や椅子の配置をマーキングして可視化し職員も利用者さんと一緒に工夫出来る事。100円ショップグッズで工夫が出来る事等、御指南頂きました。勉強会終了後直ぐに実践し、机のレイアウトを替えマーキング、椅子の配置確認をして、通路を広めに確保でき、今回の勉強会は転倒防止の工夫を職員間で共有できる良い機会になりました。



● 第18回 希望祭

工房金魚：伊藤 司

2025年11月8日(土)、開設初年度の2008年度から続く「希望祭」がにぎやかに開催されました。一昨年までは、小規模の開催でしたが、去年度からは地域の方も呼び出して開催しています。美味しい露店メニューの数々は、利用者さんはもちろん、地域の皆さんにも大好評です。やきとり・焼きそば・カレー・フランクフルト・唐揚げ&ポテト・やさいも・チョコバナナ・ワッフル・ジュース、どれも大好評でした。

自主製品では、オリジナルアート作品や個性的な手作り雑貨など、お客様も手に取りながら楽しまれました。また、今回は地域の子供たちに向けた催しとして、キャンドル作り体験を行い、子供たちも楽しそうにキャンドルを作っていました。



ステージイベントでは、障害者支援施設「しらねの里」利用者さんによる生歌披露は、透き通る美声と堂々とした歌唱に驚きと感嘆の声援が何度もあがりました。他にも、職員バンド演奏、職員の歌謡ショー、職員と利用者による「大脱出マジックショー」などで盛り上がりました。

最後に「希望祭」は、地域の方々に支えられながら開催をしています。沢山の方々に支えられていることにあらためて感謝と御礼を申し上げます。



● 地域とつながる「せりやまフェス」開催

光の丘：早坂 健快

10月18日(土)、社会福祉法人同愛会と共同運営をしている芹が谷やまゆり園にて、「せりやまフェス」が開催されました。前日まで不安定だった天候も当日は一転、汗ばむほどの快晴に恵まれ、多くの地域住民や関係者が訪れていました。

芹が谷やまゆり園での「せりやまフェス」は、運営開始1年目より実施しており、今年で3回目を迎えます。運営当初より、港南区芹が谷地域をはじめ、南区や戸塚区などの近隣地域から町内会祭りや地域イベント等に参加のお誘いをいただき、地域との交流を深めていることへの感謝を込めて、毎年、実施している行事となっています。

11時の開会式では、生活介護事業所「空とぶくじら社」による迫力ある太鼓演奏が会場の雰囲気盛り上げ、イベントのスタートを華やかに飾りました。

会場では、共同運営している白根学園・同愛会が出店し、自主製品である手作りの品々に来場者の目も奪われていました。地域からも町内会や近隣の事業所である「フラワーロード」、コンビニ「さくらみくら」等が参加し、地域とのつながりを感じる催しでした。

屋内では、お化け屋敷や射的、キャンドル釣りといったコーナーも設けられ、子どもから大人まで幅広い世代が楽しんでいました。ステージでは、同愛会「てらん広場」の職員、利用者さんによる沖縄民謡グループ「あじまー」の演奏やヒップホップダンスグループ、ペットボトルオーケストラグループ、職員によるバンド演奏、マジックショーなど多彩なプログラムが展開され、来場者を魅了していました。



他にも地域の子供たちに好評だったのは各店舗を回ってスタンプを集めるスタンプラリーでした。全体では、近隣の小学生や町内会の方、福祉関係者等、500名ほどの集客となったようで大変盛況でした。

地域と施設が一体となり、誰もが笑顔で楽しめる一日を共有できた「せりやまフェス」は、福祉と地域のつながりの大切さを改めて感じさせる、意義深いイベントでした。



街角紹介

紹介者

ホーム歩：中村 仁

突然ですが、皆さんNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」ご覧になりましたか。ドラマの中で俳優中川大志さんが演じていた畠山重忠は、実は白根学園本部のある旭区にゆかりのある人物なのです。今回の街角紹介では、旭区にゆかりのある畠山重忠の軌跡を辿ってみたいと思います。

畠山重忠（はたけやましげただ）は平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活躍した武将です。重忠は秩父氏の一族で、源頼朝の挙兵にいち早く加わり、武勇と忠義をもって知られた人物として有名で、特に「坂東武者の鑑」と称されるほど、公正で誠実な性格であったそうです。

白根学園がある旭区白根周辺は、かつて重忠の所領であり、今もその名残を感じる史跡が残されています。

重忠公碑

白根不動下の住宅街の一角に立つこの碑は、畠山重忠を顕彰するために建てられたもので、地域の人々が彼の功績を後世に伝えようと守りつづけてきました。重忠は勇猛だけでなく、戦いの際にも無益な殺生を避け、敵兵にも慈悲を示したという逸話が残っており、地元では今も尊敬を集めています。



さかさ矢竹(さかさやたけ)

これは重忠が戦の折に放った矢が地面に逆さに突き刺さり、そこから竹が芽吹いたという不思議な伝説に由来しています。現在、その竹は「さかさ矢竹」として保存され、地域の象徴的な存在になっています。取材時も自然の生命力と、重忠の精神を重ね合わせるように、竹は静かに空へ向かって伸び続けていました。



重忠公首塚

元久2年(1205年)、重忠は鎌倉幕府の命により二俣川で謀殺されました。無実の罪を着せられた彼は、わずかな家臣とともに奮戦し、壮烈な最期を遂げたと伝えられます。その首を葬ったとされるのが、現在「首塚」と呼ばれる場所であり、地元の人々が丁寧に供養を続けています。今も静かに花が手向けられていました。訪れると、忠義に生きた武士の魂がそこに眠るような厳かな空気を感じることができます。



旭区市民活動支援センター「みなくる」(ココロット鶴ヶ峰)

これらの史跡を結ぶ地域の中心施設が「ココロット鶴ヶ峰」です。相鉄線鶴ヶ峰駅近くにある複合施設で、商業店舗だけでなく、公共施設や保育園も入っており、地域交流の場としても活用されています。この施設の4階にある「旭区市民活動支援センター みなくる」には旭区の歴史を紹介する展示コーナーがあり、畠山重忠に関する資料やパネルを通して、地域の成り立ちを学ぶことができます。買い物や食事のついでに、旭区の歴史を身近に感じられる場所として、親しまれています。



このように、横浜市旭区には畠山重忠の生涯と志を今に伝える場所が数多く残っています。武勇だけでなく、誠実で思いやりにあふれたその人柄は、現代に生きる私たちにも多くの教訓を与えてくれています。史跡をたどっていると、史跡めぐりをされているご老人や外国籍の方を何人もお見掛けし、改めて重忠は旭区の市民や地域の方に慕われていると感じました。皆さんも史跡を巡りながら、かつてこの地を駆け抜けた重忠の面影に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

チャレンジドカップ アイディア賞を受賞!

社会就労センターのぞみは、この度全国の障がいのある方たちがつくるパンや焼き菓子の技術を競うコンテスト「チャレンジドカップ」(主催:非営利活動法人NGBC)に「横浜産ほうれん草のグリッシーニ」でエントリーし、見事アイディア賞を受賞しました。

本商品も含めて、店舗での販売・お電話の注文を承っております。是非ご賞味ください。

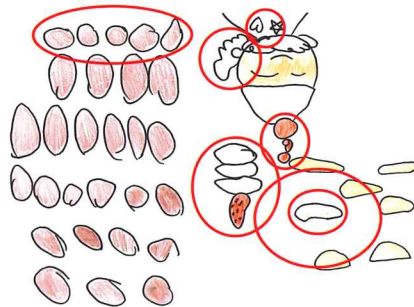


【社会就労センターのぞみ】 旭区鶴ヶ峰本町1-35-5 TEL:045-955-1939

8P

まちがい探し の答え

※逆さになっています。



職員エッセイ

「資格に興味なかった私が、資格に夢中になるまで」
地域生活センター和：荒木 恭行

学生時代の私は、資格にまったく興味がありませんでした。頑張れば複数の資格を取れたのに「資格なんて意味がない」と思い込み、最低限の保育士資格だけを取得して卒業。今思えば、楽をせず挑戦しておけばよかったと後悔しています。

そんな私の意識を変えたのは、前職の同僚の存在です。その方はドラマ『100の資格を持つ女』を目標に、100種類の資格取得を宣言していました。「こんな資格を持ってます」と資格証を見せてくれたり、「この前〇〇受けたんだけどダメでした～」と話す姿を見て、次第に私も興味を持ち始めました。

やがて「30代のうちに30種、40代のうちに40種」という目標を掲げ、会社で必要な資格と自分が興味を持つ資格を毎年一つずつ取るというルールを作り、計画的に挑戦を続けています。

私自身、数ある資格の中でも印象に残っているのが「テロ対策技能員」と「防災検定」です。

「テロ対策技能員」は東京五輪の年、警備体制が強化される中で「テロ対策とは具体的に何をやるの?」という疑問から学び始め、刺股(さすまた)や金属探知の使い方など、現場で役立つ知識を得ることができました。

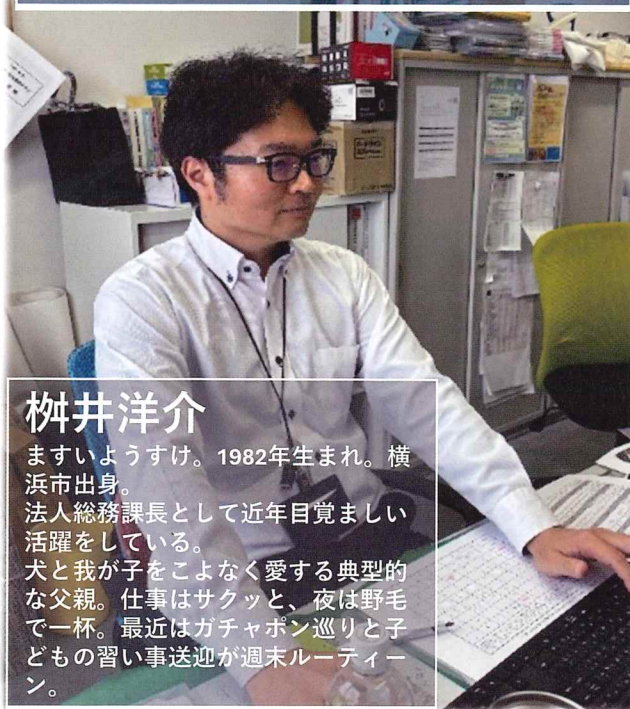
「防災検定」は、アナウンサーのプロフィール欄を見て興味を持ちました。前職(自衛隊やガス会社での防災業務)の経験にも通じる内容で、日常に活かせる学びが多くありました。

最後に「パーソナルリンパケアリスト」。これは体調不良が続いた時期に「リンパが良いらしい」という軽いノリで挑戦しましたが、学ぶうちに心身のケアの大切さを改めて実感しました。資格を通して得た経験や知識は、日々の仕事や生活にも少しずつ活かされています。これからも自分のペースで、興味を持ったことに前向きに取り組んでいけたらと思います。



挑戦が法人を強くする

「経営の正解がわからない」が悩みで、
正解を求めて日夜理念と人を愛する学園の道徳者



桒井洋介

ますいようすけ。1982年生まれ。横浜市出身。
法人総務課長として近年目覚ましい活躍をしている。
犬と我が子をこよなく愛する典型的な父親。仕事はサクッと、夜は野毛で一杯。最近はガチャポン巡りと子どもの習い事送迎が週末ルーティーン。

私が思う法人本部の役割

法人本部は、白根学園を支える“見えない主役”。組織の枠組や制度を整え、給与を届けています。派手さはないけれどもなくてはならない存在であり、今後も縁の下の力持ち兼職員の安心係として職務を担っていただけるよう日々精進致します。

地域の皆さまこんにちは。桒井です。

社会福祉法人白根学園はどのような法人ですか？

当法人は昭和35年に設立され、65年目を迎えています。知的障害のある方々の生活支援を行う社会福祉法人で、ご利用してくださる方は幼児から高齢者まで幅広い年代の方々がいらっしゃいます。私はその中で、経営全般の管理を任されており、公益性を第一に仕事をしています。

うちの法人のここが好き

中途採用の方が多く、今まで培ってきた経験値や価値観が交わる法人であるところ、故に考え方の違いが刺激にもなり、自身の成長に繋がっています。また、「学園」という名の通り、学び続ける姿勢を大切にできる環境があります。一人ひとりが学びながら白根学園と共に成長していける、そんな前向きな空気がこの法人の魅力です。

挑戦したいこと

一人ひとりが輝ける社会を作るために、他法人との連携をしながら福祉活動を通して地域に貢献し、地域活性化と安心して暮らせる街作りに挑戦します。これからも地域と手を取り合い、笑顔あふれる未来を共に創ります。

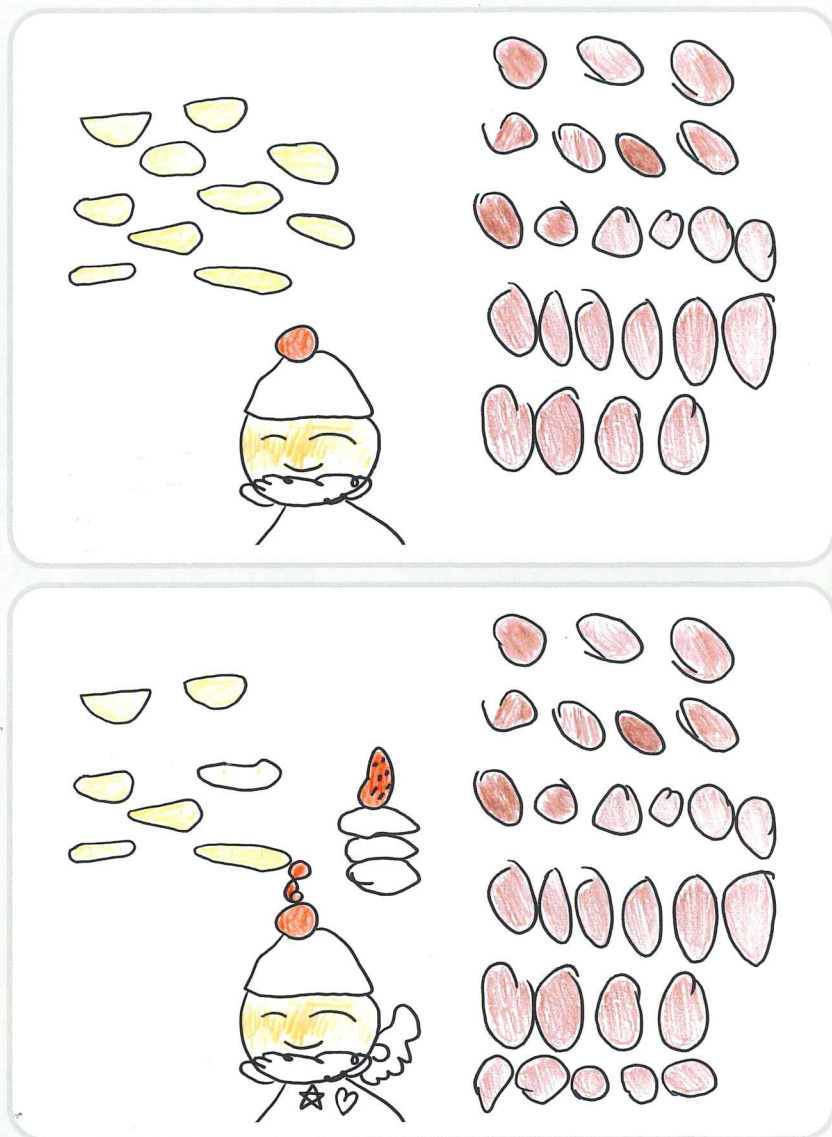
地域の方に向けてのメッセージ

地域の皆さま、今後とも当法人を温かい目で見守ってください。また、障害の有無にかかわらず、誰も取り残されない地域の実現に向けて全身全霊で働く所存です。白根学園として地域の皆さまのお役に立つことが出来ればなお嬉しいです。この桒井にどうぞご用命ください。

まちがい探し

この上下の絵の違いがわかるかな？
白根学園の利用者さんが作った
まちがい探しです。
7つまちがいがあるよ。
よくみないとわからないから
頑張って見つけてみよう。
答えは6ページにあるよ。

作：ぶどうの実
町 あやかさん



編集後記

ぶどうの実：後藤 みゆき

寒さが日ごと増すこの頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

先日衣替えをしていると、子ども達の洋服のサイズが小さくなり成長を感じています。日々一緒に生活をしている中で、どんどん成長していく姿を見ていくのはとても感慨深いものがあります。またうまく出来なかったものがいつのまにか出来るようになっている事も多くあり、成長の早さにも驚いています。子ども達の成長の早さに負けぬよう、私自身も成長していかなければならないと感じています。



この広報誌もより良いものをお届けできるよう、広報委員一同頑張っています。

2025年も残りあともう少し。皆さまお身体を大切にお過ごしください。